

シリーズ

“キラリ企業”の現場から 第4回

当公社のさまざまな事業を活用しながら、一筋に経営に取り組む企業をご紹介します“キラリ企業の現場から”。第4回目は、ランドセルをオリジナルの記念品としてミニサイズに加工する業務を手がける岡カバン店の岡成一氏をご紹介します。岡氏には当公社の平成17年度商店街パワーアップ助成事業(注1)において堀切地区5商店街のホームページ作成委員として、堀切地区5商店街のホームページ“ほりきり発見伝(URL: <http://www.horikiri-s.com/index.html>)”制作における内容・構成の決定に中心となって携わっていただきました。

思い出の詰まったカバンを大切に ～ランドセルをミニ加工するカバン店～

岡カバン店

思い出の詰ったカバンを記念品に

小学校6年間をともに過ごすランドセル。長い間お世話になるものの、卒業するとなかなか出番もなく、忘れられがちだ。思い出が詰まっていてなかなか処分もできず、どうしたらよいか……と頭を悩ませる人も多いだろう。そんなランドセルをオリジナルの記念品として4分の1の手のひらサイズに加工するカバン店がある。葛飾区堀切にある岡カバン店だ。

「ランドセルのミニ加工～思い出の詰ったオリジナルの記念品に～」というお店の文句にインパクトがあり、大変よいな、と思いながら取材に行った。岡カバン店に着くと玄関には、お客様からのランドセルが宅急便で届いていた。

カバン修理にかかわるまで

代表を務める岡成一氏は、地元の高校を卒業して10年間、スポーツ用品の会社でサラリーマンになったが、職人気質というのであろうか、なにか自分で仕事をしたいとの思いをずっと持っていた。とはいえ、なかなか踏ん切りがつかなかったが、“サラリーマン生活10年目”がひとつの区切りになった。人のやらない事・お役に立てる仕事は？ と考えるうちに修理が思いついた。

文字通り“サラリーマン生活10年目”となる28歳の時に、父親の営むカバンの製造と販売のお店を引継いだ。父親との意見の相違などを乗り越え、在庫を多く抱えなければならないカバンの販売を止め、カバンの修理を中心としたお店に転換した。現在はランドセルのミニ加工、カバン類の修理・補修・リメイクを主な業務としている。

カバン修理の技術は、子供の頃から父親の仕事を手伝いながら、見よう見真似で自然に身につけてきた部分もあるものの、ほとんどの部分は独学で習得した。岡氏はその苦勞についてはあまり多くは語らなかったが、現在に至るまでは、相当な苦勞があったのであろうと想像できる。

岡氏は、修理の世界は製造とは違い、創意工夫が重要と話す。製造はパーツの組み合わせで完成できるが、修理はメーカーや材質、修理の内容など取り組むひとつひとつの商品に違いがあるからだ。修理の方法を考え、完成させるには、その人の感性が求められるのだ。



実物大のランドセルとミニ加工されたランドセル

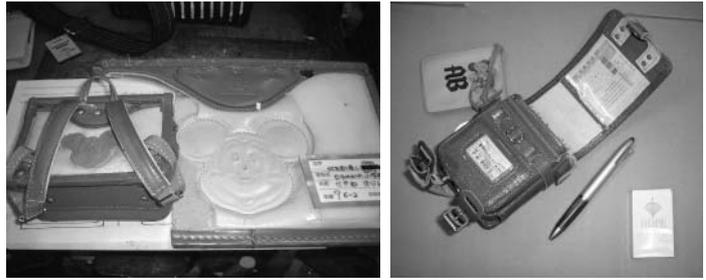


ランドセルのミニ加工をする岡氏

ランドセルのミニ加工へのこだわりと想い

ランドセルのミニ加工を思いついたきっかけははっきりと憶えてはいない。しかし、いつかどこかで見かけた小さなランドセルを自分で作りたいという思いが1つの夢として岡氏の胸の中に長くあった。

すでに修理を業務にしていた岡氏に、その思いを実現する機会はすぐにやってきた。近所の中学時代の同級生の息子さんが小学校を卒業したので、お母さんに使っていたランドセルで「ミニ・ランドセル」を作りませんかと持ちかけた。完成品を見たお母さんの「あら、かわいい、これなら記念品にとっておける」との言葉で、この仕事を続けていけると確信した。



柄や落書き、時間割表や名札なども忠実に再現（写真左・右）
そばにあるタバコの箱やペンからその小ささがわかる（写真右）

ミニ加工したランドセルの大きさは元のサイズの4分の1。350mlの缶ジュースと同じくら

いの大きさだ。もとの素材を利用しながら、縦横の比率やデザインなど、原型はそのままに加工。落書きやシール、特長のあるキズなどは残し、時間割表や名前用紙も縮小するという徹底ぶりだ。お客様のひとつひとつの思い出を大切にしたいという岡氏のこだわりが伝わってくる。完成品を受け取ったお客様はそのあまりの精巧さに驚くという。

現在は、ランドセルだけでなく、幼稚園や保育園のバック、中学生、高校生のスクールバック・サブバック、上履き袋など、多くの種類を手がける。素材もコードパン・牛革・クラリーノなど多くの場合どんなものでも可能だ。ランドセルから始まったミニ加工は、1990年に始め、現在で17年目。現在ではあまりに注文が多いため、完成までに1年待ちでも厳しい状況だ。作業は岡氏ただ一人で行なっているの、加工には限度はあるが、形にこだわり加工を行っている。お客様には1日でも早く届けたい気持ちでいっぱいだ。



ランドセルだけでなく、幼稚園バックの加工なども手がける

終わりにー2人の恩人との出会い

岡氏がカバンの修理を始めて18年。岡氏が手がけたミニ加工の数は約5,000個にもものぼる。その間には2人の人物との大きな出会いがあった。

1人は、仕事を始めた最初の頃に修理の仕事を出してくれたM氏との出会いだ。M氏は洋服のリフォームをしていたが、最近カバンのリフォームも始めた方である。注文を出してくれたM氏には本当に感謝しているという。

もう1人は、1996年にテレビ番組の「ぶらり 途中下車の旅」京成線特集で、取材にきていただいた俳優の阿藤快さんだ。メディアに取り上げていただいたことが非常に大きかったと岡氏は言う。中小企業の多くは、よい技術を持ってよい製品を作っても、世の中になかなか認知してもらえないのが現状だ。岡氏自身もこの番組に出るまでは、仕事に困る状況もあったそうだ。

インタビューを終えて

「ミニランドセル加工に長期間待ってもらうことがイヤで、やめてしまおうか、と思ったことは2度、3度。しかし、お客様の思い出・想い深きモノ、大切に1つにこだわり、喜んで頂く事を励みとして、主役はランドセル！ これからも続けて行こうと考えています」と最後にお話くださった岡さん。元気よく笑顔で迎えていただき、誠実に丁寧にお話ししていただきましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。
(総合支援課 関根孝夫)

(注1)

商店街パワーアップ助成事業は、都内商店街の活性化を図るため、商店街のHPの作成支援や個店の活性化を支援する事業です。

企業名：岡カバン店（個人企業）

代表：岡 成一

本社所在地：葛飾区堀切3-4-12

電話：03-3691-5954

FAX：03-3691-5972

URL：http://www.minirandosel.com

Eメール：oka@minirandosel.com

インタビューにお答えいただいた方：代表 岡 成一氏

※ランドセルのミニ加工に興味のおありの方は
受付は郵送でも対応可能です。そのときの思い出を大事にさせていただくために、お客様には、ネーム用紙、お守り、シール等はつけたままあるがままのランドセルをお送りいただいています。また、ネーム加工（お名前・卒業年）ミニに刻む為、お子様のお名前、ふりがな、生年月日をお書き添えいただいています。なお、カバンのミニ加工への費用は1万円となっております。詳細は直接お問合せください。